

タジキスタン内戦と戦後復興

メフラリ・トシムハンマドフ

はじめに：危機の前史

ソ連を構成していた他の共和国と同様に、ソ連崩壊後、タジキスタンでも社会の移行プロセスが始まった。バルト諸国を例外とすると、政権をめぐる争いが絶えず先鋭化するのがポストソ連の常態であった。政権サイドは権力を手放そうとせず、新興勢力は手段を選ばずこれを手に入れようとする。結果的として、社会は政治的な対立に巻き込まれる。タジキスタンの場合、様々な要因と特殊性のために、この対立は軍事的なものに至った。

タジキスタンの概要

タジキスタン共和国は、世界最大の山系—崑崙山脈、ヒンドークシュ山脈、ヒマラヤ山脈、パミール高原、天山山脈の中心部にあり、かつ中央アジアの南東部に位置する。従って、全国土14万3100平方キロのうち、93%が高度300mから7495mの山地となる¹。水域は国土の1%しか占めておらず、主な水域は8476平方キロに上るパミール高原の1085の氷河である。タジキスタンの河川は、中央アジア地域全体における水資源の60%を占める。気候は地域によって対照的であり、南部は冬でも22℃、夏は45℃まで気温が上がるのに対し、東部では冬は-60℃、夏は-8℃まで下がる²。

タジキスタンは、その北西がウズベキスタンと(910km)、北東がクルグズスタンと(630km)、東は中国と(430km)、そして南はアフガニスタンと(1030km)国境を接している³。人口650万人超のうち、農村人口が72%を占め、人口の自然増加は1000人当たり144人である⁴。国民の平均寿命は67歳。1平方キロあたりの人口密度は45人。人口構成全体の80%弱がタジク人、15.3%がウズベク人、ロシア人とクルグズ人がそれぞれ1.1%、タタール人とトルクメン人がそれぞれ0.3%である⁵。宗教について述べると、タジキスタンの住民の95%以上がイスラーム教を信仰しており、大部分はスンナ派だ。山岳バダフシャン自治州、またはパミール高原の住民だけは、少数の例外を除きイスラーム教シーア派の一派であるイスマーイーール派の信者である。

起源的には、タジク人はインド・ヨーロッパ語族に属する。現在のタジキスタン人の人口構成は、タジク人の1000年にわたる発展の歴史の結果として形成されたものだ。タジク人の最初の国家は9-10世紀のサーマーン朝統治下で成立した。その成立1100年記念が1999年に行われた。異邦人の襲撃(ギリシャ人、アラブ人、モンゴル人、トルコ人、フン族エフタル他)、内部紛争、19世紀末の大国による影響力の競い合い、そして1920年代における中央アジアでの共和国国境画定の結果、タジク人は豊かな谷か

¹ Ежегодник Республики Таджикистан // Госкомитет статистики Республики Таджикистан. – Душанбе. 2003. – с. 4–9.

² Там же. Регионы Таджикистана // Статистический сборник // под ред. О. А. Джабборов – Госкомитет статистики Республики Таджикистан. – Душанбе. 2002. – 210 С.

³ Там же.

⁴ Население Республики Таджикистан. // Госкомитет статистики Республики Таджикистан. – Душанбе. 2000. – с. 155.

⁵ Там же.

ら山地へと追いやられた⁶。

タジク人の一部はウズベキスタンの帰属となったサマルカンドとブハラに残った。また、アフガニスタンに入った者や、より良い生活を求めて方々に散った者もいる。そして残りの者たちは、他国で果てるか、あるいは同化していった。タジキスタン共和国大統領エモマリ・ラフモノフに言わせると、「タジク民族は、数千年間にわたる様々な勢力との戦いのなかで形成されてきた・・・」。「タジク民族は、身体的に残酷な攻撃を受けてきたにもかかわらず、固有の文化と言語の影響力で対応した。そして、敗北した民族の文化は、勝利者に勝った」のである⁷。

現在のタジキスタンは、独立した、民主的な、法治、世俗、単一の国家である。統治形態は大統領制をとる。大統領は国家元首であり、行政府の長であり、かつ軍最高司令官となる。タジキスタンの議会であるマジュリスィ・オリーは、マジュリスィ・ミッリー（上院）とマジュリスィ・ナモヤンダゴン（下院）から成る。下院は63人の議員で構成され、うち41人（65%）は小選挙区ごとに選出され、残りの22人（35%）は政党リストから選ばれる。上院は、33議席のうち、25議席（75%）は州及び共和国直轄区の議員総会において選出され、8議席（25%）は大統領によって指名される⁸。政府は、首相、副首相、各大臣、各委員会の委員長、国家機関の長で構成される。

タジキスタンの行政区分は、山岳バダフシャン自治州と、ハترون州、ソグド州と共和国直轄下にあるいくつかの地区から成っている。タジキスタンには合計して62地区、23都市、47町、360ジャモアト（村）が存在する⁹。タジキスタンは地理的位置、起伏、気候、高度の点で格差が大きいため、条件付きで大きく4つのゾーンに区分される。つまり、北部（ソグド州の大部分）、クヒスタン（ソグド州のザラフシャン渓谷とラシュト渓谷）の共和国直轄区、南タジキスタン（ハترون州、ヒソル渓谷、ドウシャンベ市）、パミール（山岳バダフシャン自治州）である。

タジキスタンは、発達した産業を一部に兼ね備えた農業国である。2003年のGNPは475万7800ソモニ（16億ドル）¹⁰。1ドルは2.91ソモニ（2004年5月現在）。最低賃金は4ソモニ。労働力人口は約190万人、失業者は43万から80万人に上る¹¹。

タジキスタンに影響を及ぼす外からの要因

タジキスタンの特殊な地政学的位置のために、外部勢力がタジキスタンにかかわる利益の性格も違ってくる。基本的に、大国の利益にかかわるのは中央アジア全体のエネルギー資源、つまり、莫大な量の石油・ガス、金・ウラン・希少金属・淡水だ。水資源、電力、石炭及びウランを除くと、タジキスタンは主として中継国としての役割

⁶ Гафуров Бободжон. Таджики: древнейшие, древние и средневековые. // 2-е изд. – Д.: «Ирфон». – 1993. – 475 С.; Масов Р. История топорного разделения. – Д.: «Ирфон». – 1991. – 192 С.; Масов Р. Таджики: под грифом «Совершенно секретно». – Д.: «Ирфон». – 1995. 95 С. Таджикистан. Раздел истории. БТЭ. – Д.: «Ирфон». – 1990. – 450 С.

⁷ Эмомали Рахмонов «Таджики: вчера и сегодня». // «Сегодня». – М.: №163, 7 сентября 1996 года.

⁸ Ахбори Маджлиси Оли Республики Таджикистан. – Душанбе: «Паёми Сомони». – 2000. №11. – с.121–124.

⁹ Ежегодник Республики Таджикистан // Госкомитет статистики Республики Таджикистан. – Душанбе. 2003. – с. 21.

¹⁰ По данным Министерства финансов РТ за 2003 год.

¹¹ Материалы Международной конференции «Проблемы трудовой миграции: реалии, тенденции и прогноз». Душанбе. 2004.

を果たす。アフガニスタン、パキスタン、中国、クルグズスタン、ウズベキスタンを経由する、中央アジアのエネルギーとその他の天然資源の輸送を安全に行うために、タジキスタンの平和と安定が維持されなければならない。

タジキスタンにおけるロシアの利益は、二カ国間のみならず多国間の枠組みにおける軍事・政治的、経済的、文化的利益によって規定されている。第一に、ロシアとタジキスタンはC I S構成国であり、集団安全保障条約機構、及び関税同盟の加盟国だ。国際機構・地域機構の中で、ロシアは積極的にタジキスタンの国益を擁護してきた。第二に、ロシアはC I S南境の共同防衛のため、タジキスタン・アフガニスタン間の国境を、国際テロ、急進的過激主義、麻薬・武器の密輸から守ってきた。そして、ロシアはタジキスタンと中国の国境問題解決について、タジキスタンの国益を擁護してきた。

第三に、当時、二カ国間の経済関係はまだ旧ソ連の統一経済圏の枠内にあった。ロシアはタジキスタンの最大の出資国であり、また債権国でもあった。第四に、タジキスタンの一定の人口、とりわけ都市住民は、精神面でも生活様式の面でも他の外国より、ロシア・ソ連のそれに近かった。さらに、ソ連崩壊後もタジキスタンにはロシア系住民が50万人近くも居住していた。彼らは自らの歴史的故郷の精神的・物質的支援を必要としていた。加えて、汎テュルク主義、汎イスラーム主義の国家「大トルキスタン」や「大ホラーサーン」の再建を誇張した構想が、ロシアにある種の懸念をもたらした。

タジキスタンにおけるウズベキスタンの利益は、歴史的な強い結びつきによって規定される。多くのタジク人とウズベク人が民族間結婚をし、ソグド州およびヒソル渓谷西部の住民と、ハトロン州の住民の一部は二ヶ国語を話す。また、両国は隣接しており、長い国境を共有する。タジキスタンには120万人以上のウズベク人が住む。また当初、タジクキスタンのエスタブリッシュメントたちは、幹部（カードル）問題の解決のため、ウズベク人の昇進を積極的に働きかけていた。

タジキスタンでの民族・愛国主義勢力やイスラーム勢力の出現を、タシケントは自国の領土保全や安全保障に対する脅威と見なした。なぜなら、タジク人と結びつきのある二つの古い大都市—サマルカンドとブハラーの帰属問題と、フェルガナ盆地でのムスリムの活発化が「巷の噂」となっていたからだ。加えて、ウズベキスタンは中央アジアのリーダーの役割を狙っていた。

当時、アフガニスタンは内戦の最中にあり、その地政学的位置のせいで、中央アジア地域全体の情勢に直接的な影響を与え続けていた。現在のアフガニスタンとタジキスタンの間に、アム・ダリヤとパンジ川に沿った中東と中央アジア間の歴史的境界が横たわっていた。ロシア軍の中央アジアへの到来によって、ロシア、大英帝国、中国の間の勢力圏が公式に定着した。1920年代の、イギリスによるアフガニスタン南部を支配下に置こうとする試みと、ロシアによるアフガニスタン北部を支配下に置こうとする試みは、成功を収めなかった。その結果、アフガニスタンは二大国間の緩衝地帯となり、アフガニスタンは、70年にわたってその地位と安定を享受しえた。

ソ連のアフガニスタン侵攻によって、地域の歴史的均衡が乱され、あらゆる勢力の出現を促した。さらに、アフガニスタンの麻薬密売組織は、1980年代末にすでに、タジキスタンを通過する将来の麻薬輸送ルートを組織しつつあった。

トルコ、イランはもとより、パキスタン、中国、インド、米国も、中央アジアへの自国の影響力を強化しようとする望みを捨てていなかった。トルコは、神政国家イラ

ンと反対に、世俗的イメージを利用して、中央アジアでの指導的な立場を得ようと努めた。また米国の同盟国として、トルコは地域におけるロシアのプレゼンスに抵抗していた。

イランもやはり地域との関係を築こうとしていたが、歴史的・言語的・宗教的な共通点が多いため、特にタジキスタンとの関係強化に積極的であった。その他にも、米国の同盟者たるトルコとの競争や、中央アジアにおかえる米国のプレゼンスに対抗するため、イランは自国の影響力を高めようとした。同時にイランは国際イスラーム組織の中で権威を有し、強い立場にあった。

中央アジア諸国と3千キロの国境を持つ中国も、中央アジアの情勢に無関心ではいられなかった。中国は中央アジアの安全保障、安定、発展を促進するため、二カ国間そして地域全体の枠組において、中央アジア諸国との協力を次第に強化していく。他方で、中国には国境を接する諸国への領土要求もあり、国境決定や画定の問題の解決が待たれた。

タジキスタン及び中央アジア全体に対するインドの利益は、地域的安全保障と地域プロセスへのアフガニスタン内戦の影響、そして麻薬や急進的イスラームの拡散との戦いにかかわる共同対処によって規定されている。インドは、パキスタンが中央アジア、なかでもタジキスタンにおいて影響力を拡大することを防ごうとした。パキスタンのアプローチもその裏返しといえ、中央アジアにおけるインドの利益に対抗した。

ソ連崩壊後、米国も自国の巨大な経済及び技術上の潜在力を利用し、ロシアに対抗するとともに、中央アジアでの影響力の組織的拡大に着手した。また米国は、中央アジア諸国が反米的政策をとる国や、急進的イスラーム運動と政治的に接近することを防ごうとした。ワシントンは、米国の会社が中央アジアの天然資源開発に参加したり、米国製品が中央アジアの消費市場に浸透したりする環境づくりに努めてきた。

かくて、紛争の直前、小国タジキスタンは世界および地域の大国の利益が交差するところにいた。このため、国内情勢はいっそう深刻化する。他方で、大国内ではそれぞれの国の公的な政治的立場とは一致しない、個人的あるいは集団的な利益に基づいた諸集団や諸勢力が蠢動しており、タジキスタンへのアプローチを続けていた。

紛争悪化の国内的要因

1980年代に始まったタジキスタンでの事態の推移を、政治的意義と内実に沿って、いくつかの時期に区分してみよう。

- ① ソ連の成長期が終わる1985年まで
- ② 1985年－1990年、ゴルバチョフのペレストロイカ
- ③ 1990年－1992年、政治対立
- ④ 1992年半ば－1997年6月、武力紛争とタジク人との交渉
- ⑤ 1997年6月－2000年、タジキスタンにおける和平と国民的和解に関する包括協定調印及びその実現
- ⑥ 2000年－現在、紛争後の復興

国内的原因の中には、主として地域、地方、宗教などの要因が含まれる。これらは、タジキスタンの歴史的、地理的、人口的、社会・経済的発展における特殊性によって強められた。原料生産中心のかたよった国民経済が、70年間続いたタジキスタンの社会・経済的発展の特徴であり、これによって、タジキスタンは旧ソ連の工業的に発展した地域の原料付属地と化した。ドイツ銀行の専門家によれば、経済発展および資源

力の点で、1990年代初頭のタジキスタンは全C I S諸国中最低とされた¹²。

事実、他のC I S諸国と比べて、当時のタジキスタンの人口一人当たりの経済指標（国民所得、生活水準、住宅・教育施設の供給、保健、文化）は最も低かった。同時にタジキスタンでの、特に農村の人口自然増加率は最も高かった。タジキスタンの対外債務は7億ドル、国債は15億タジク・ルーブルに至った¹³。

経済及び社会上の困難が住人たちの意識をとらえ、徐々に露骨な政治的志向が現れ始めた。大衆の不満は、政権と行政機構に対する不満へと転化し、やがて社会的過激主義、急進主義と結びつく。1990年2月11日から14日まで、タジキスタンでは70年間で初めて政権に対する国民の抗議集会が開かれ、1万から3万人が参加した。「タジク人のためのタジキスタンを！」というスローガンやその他民族・愛国主義的性格をもつプラカードが初めて現れた¹⁴。集会に参加した群衆が共和国指導部の総辞職を求めて、タジキスタン共産党中央委員会の建物を襲撃したとき、抗議活動は流血の惨事を招いた。群衆はソ連の国内軍と特殊部隊によって追い散らされ、射殺された。公式な資料によると、当時22人が死亡、100人以上が負傷した¹⁵。しかしこの2月の事件は、これから起こる武力衝突の一種のプロローグ、いわば「最終リハーサル」に過ぎなかった。

この時期の政治的対立への影響力と活動の点では次の集団が際立っていた。

- ① 共産党・ソビエトと経済のノーメンクラトゥーラ・エリート
- ② ペレストロイカ派
- ③ イスラーム勢力
- ④ 非妥協的な地方派とタジクマフィア

これらの中で最も政治力を持っていたのは、やはりかつてのエリートたちだ。彼らは当初、ペレストロイカを、新しいソ連共産党指導部のいつもながらの政治的ゲーム、長続きしないキャンペーンだと考えた。だが、新しく登場した諸党や運動が急激に発展し、それらが権力再配分をめぐる厳しい闘争を開始するのをみて、エリートたちはすぐに事態をのみこみ、あらゆる手段を講じて反撃に出た。

当時ペレストロイカ派と呼ばれた新しい政党や運動について述べると、民主党、イスラーム復興党、民族主義的市民運動組織「ラストヘズ」、民族文化・社会的連合の「ラアリ・バダフシャン」、「オシュコロ」、「ヒソリ・ショドモン」、「メフリ・ハトロシ」、「エフヨイ・マストチョ」などが含まれていた。これらはグラスノスチやペレストロイカによって開かれた機会を利用して、古いノーメンクラトゥーラに対して攻勢を強めた。

非妥協的な地方派には、ペレストロイカの過程で地位を失った者たちが含まれており、彼らは失った地位を取り戻すことに奔走した。概して、彼らは元々、州・市・区の共産党委員会の書記であったり、周辺部の、特に旧クルゴンテッパ州の法執行機関や商売を牛耳っていた者たちであった。さらに、ソ連共産党に支持されたタジキスタン共産党の決定、つまり、クルゴンテッパ州とクロブ州を再統合し、新しい州を創設するというものが、大衆による否定的な政治化に油を注いでいた。結局、この問題の

¹² Экономическое развитие и ресурсный потенциал стран СНГ // Деловой мир. – М.: 1992. Приложение. – с. 14.

¹³ Народная газета. – Душанбе. №67, март 1996 г.

¹⁴ Февральские события в Душанбе. // Коммунист Таджикистана. // Чумхурият. 1990. Февраль.

¹⁵ Душанбе. Черный февраль 90-го. // www.dw-world.de/russian. 15.02.2002.

解決には2年以上かかったため、一部の住民たちに権威と影響力を持つ官僚たちは、新しくできるハトロン州で高い地位に就くための闘争にそれらの住民たちを利用した。

イスラーム勢力の中で最も活発であったのは、中央アジア・ムスリム宗教局のタジキスタン支局であるタジキスタン・カーディー庁が管轄するモスクの聖職者たちと、新しいタジキスタン・イスラーム復興党を支持する若者たちであった。彼らは、宗教的信条の純潔と過剰な宗教儀礼の拒否を訴え、とりわけ農村住民の支持を集めた。

90年代初頭のタジクマフィア組織は、国際的に組織された犯罪集団に成長した。彼らは「闇」経済、商業、レストラン業、生産協同組合などの多くの分野を支配していた。彼らは徐々に地方行政機関、警察機構に浸透し、非常に良く組織された通信・輸送・戦闘集団・金融システムを手にした。軍事的・政治的対立の間、当初、タジクマフィアたちは政治的対抗勢力によって分裂させられていたが、その後は逆にそれらの勢力を犯罪目的達成のために積極的に利用していった。

1 内戦と紛争の調停

1991年のタジキスタンにおける大統領選挙の結果、古い党・ソビエト的な経済ノーマンクラトゥーラが再び政権を回復した。彼らは非妥協的な地方派の大部分と、タジクマフィアの一部を引き込むことに成功した。一方で、民族愛国派と民主党を含むペレストロイカ派はイスラーム勢力と結びつき、犯罪組織によって補充された。両者の間の闘いは新たな局面を迎え、深い危機に陥った。外部勢力もこの情勢不安定化のプロセスに大きく関与し、自身の利益のため各勢力を利用した。加えて、商品の不足、経済崩壊、社会的不安定、行政システムの麻痺状態が事態を悪化させた。

政治的・軍事的対立と結果

1992年3月から、タジキスタンの危機は地域主義的・氏族主義(clan)的性格を帯びはじめ、めまぐるしい速さで拡大していく。後にこれは共産主義勢力と民主主義及びイスラーム対抗勢力のイデオロギイ的戦いというレッテルを貼られる。数ヶ月にわたって数千人が参加する抗議集会が始まり、それらは次第に暴力的手段を利用するようになった。1992年5月5日には大統領令で非常事態宣言が出され、ドゥシャンベでは夜間外出禁止令がひかれた。しかし、事態はすでに統制不能と化しており、政権は完全に麻痺し、軍事的手段の行使が始まった。民族意識は地域意識にとって代われ、対立の中心はドゥシャンベからヴァフシュ渓谷に移った(編集注:ヴァフシュは反政府側のイスラーム復興党党首ヌーリや政府側ヤクブ・サリモフ元内相らの出身地であり、双方の指導的立場にある武装集団が同地で対峙したため、対立が先鋭化し、この地で戦端が開かれた)。

1992年6月27日から継続的に武力衝突が起こった。両者の戦闘に、ロシア、ウズベキスタン、バルト諸国、コーカサスからの傭兵、アフガニスタンのムジャヒディン、アラブの指導員、タジキスタンの刑務所から出されたかなりの数の犯罪者らが、積極的に戦闘に加わった。紛争はますます流血を増し、犯罪的な性格を帯びた。

タジキスタン内戦の結果、4万から10万の人々が亡くなり、数十万人が障害者となり、一家の稼ぎ手たちが失われた。100万人近くの難民・強制移民が発生し、破壊された住居は5万件以上に登った。経済的損失は70億ドルに達した¹⁶。

¹⁶ Война и мир в Таджикистане. // www.svoboda.org. Спецпрограммы. 13 ноябрь, 1997;

1992年11月16日に行われたタジキスタン最高議会で大統領制が廃止され、議会指導制が導入され、ラフモノフを議長とした新タジキスタン政府が形成された。反対派は主に東部に退却し、そこからアフガニスタンへ逃れた。反対派はアフガニスタンで戦闘集団を結成し、後にタジキスタン・アフガニスタン間の国境を越えて繰り返し政府軍への攻撃を行った。例を挙げると、1993年の7月12日と13日に、200人以上の戦闘部隊がタジク南部のモスコフスキー行政区に位置するモスクワ第12国境警備隊駐屯地区でタジキスタン領土に侵攻した。その結果、25人のロシア国境警備兵、ロシア第201自動車化狙撃師団とタジキスタン国家保安委員会の数人、そして多くの現地住民が死亡した¹⁷。

タジク間和平交渉プロセス

タジクの両陣営はすみやかに戦争の無意味さに気づき、紛争を引き起こした原因と結果、さらには武力による問題解決には展望が見いだせないことを理解した。両陣営間の交渉に橋をかける重要な役割を果たしたのが、ロシア、イランなどの近隣諸国及び国連といった国際社会であった。国連は、タジクの両陣営とC I S諸国の依頼により、和平交渉プロセスに関与した。国連の最初の政治ミッションは1993年1月21日に発足する¹⁸。

国連はまた紛争調停に関する特使と国連事務総長代理をタジキスタンに派遣し、保障国コンタクト・グループ、タジク両陣営の代表団による諮問会議、調停作業部会、「シャトル外交」などの紛争調停メカニズムを承認した。

ここで、タジキスタンの平和と安定の回復のために命を失った国連職員たちについて述べたい。それは、国連タジキスタン監視団（UNMOT）の政務官であった秋野豊氏である。北海道出身の彼は私の同僚となった。他にも、オーストリアのヴォルフガング・スポンナー氏、ポーランドのリシャルド・シェフチク氏、ウルグアイのアドルフォ・シャルペッゲ氏らUNMOT軍事オブザーバーたちとタジク人の通訳者ジュラジョン・マフラモフ氏の4人が殉職した。ヌロボド地区にある彼らが非業の死を遂げた場所（ラビジャル）とラシュト地区の中心部にそれぞれ記念碑が、ドゥシャンベの旧UNMOT本部の正面に記念プレートが建てられ、毎年7月20日に献花が行われている。彼らの名前が学校の名前になっている。彼らはタジク民族の心のなかに永遠に記憶されるだろう。

タジキスタンの軍事・政治的対立の調停において最も重要な役割を果たしたのはロシアであった。まさにロシアのイニシアティブで、カザフスタン、クルグズスタン、ロシア、タジキスタン、ウズベキスタンの各大統領及びトルクメニスタンの大統領代表による会談が行われた。この会談ではC I S南境たるタジキスタン・アフガニスタン間国境の共同防衛に関する決定が採択され、タジキスタンで対立している両陣営に交渉が呼びかけられた。

Анатомия гражданской войны в Таджикистане (Этно-социальные процессы и политическая борьба, 1992–1995). В. И. Бушков и Д. В. Микульский. www.ca-c.org/datarus; Таджикистан: региональные аспекты конфликта. Азиз Ниязи. // www.ctaj.elcat.kg.

¹⁷ Юбилей подвига. 10-летие смертельного боя 12 погранзаставы в Таджикистане. // www.mpa.ru.

¹⁸ ООН и положение в Таджикистане. // Справочный документ. – Нью-Йорк : Март. 1995. – с.11.

1993年9月24日のC I Sサミットでの決定により、C I S共同平和維持軍が創設される¹⁹。これは、ウズベキスタン、カザフスタン、クルグズスタンからそれぞれ一大隊ずつ、ロシアから国境警備隊及び第201自動車化狙撃師団が加わった、計2万5千人の部隊である。7年間の間にC I S共同平和維持軍によって千トン以上の人道支援物資が輸送され、うち3分の2は高山地区へと運搬された。その他にも政府・人道組織の貨物輸送の警備、4万人以上の難民の護送、100以上の地雷原の除去、14万1千個もの爆発物の発見と撤去を行い、1万8千人の負傷者・病人が治療を受け、40件以上の施設が警備された。これらの作戦が実行される過程で、101人のロシア兵士と20人以上のカザフ人が亡くなった²⁰。

イラン・イスラーム共和国も紛争調停において、少なからぬ重要な役割を果たした。イランは自国の偉大な権威と影響力を利用して、タジク反対派に政治的交渉のテーブルにつくよう説得しえた。イランは利害関係国、とりわけロシアとの間で現実的な紛争解決のための積極的対話を行った。アフガニスタン、カザフスタン、クルグズスタン、パキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、そして欧州安保協力会議（現O S C E）、経済協力機構、イスラーム会議機構、世界銀行、その他の国際機関及び米国、日本、ドイツ、E U、その他の諸国を含むタジキスタンの支援国諮問会議のメンバーたちによって、平和的調停の環境が支えられた。

タジキスタン政府とタジク反対派連合（U T O）の政治的交渉の経験はユニークであり、他の紛争地域にも適用できるだろう。国連の庇護下で4年間にわたって、8ラウンドに及びタジク人との交渉が行われ、これには他の関係諸国の代表も参加した。

- ・第1ラウンド（1994年4月5日-15日、モスクワ）
- ・第2ラウンド（1994年6月18日-25日、テヘラン） また、9月12日から17日にかけてもテヘランで両陣営代表による協議が行われ、暫定的な停戦合意を守るための共同監視団が創設。
- ・第3ラウンド（1994年10月20日-11月1日、イスラマバード）²¹
- ・第4ラウンド（1995年5月22日-6月1日、アルマトゥ）
- ・第5ラウンド（1995年11月3日-24日、1996年1月26日-2月18日、7月8日-21日、アシュガバート）
- ・第6ラウンド（1997年1月5日-2月19日、マシュハド及びテヘラン）
- ・第7ラウンド（1997年2月26日-3月9日、モスクワ）
- ・第8ラウンド（1997年4月9日-5月28日、テヘラン）

タジキスタン紛争の政治的調停プロセスでは、両陣営の指導者、大統領ラフモノフと、U T O代表サイイド・アブドゥッラー・ヌーリーの会談が重要な役割を果たした

¹⁹ Решение о Коллективных миротворческих силах в Республик Таджикистан. // www.cis.minsk.by/russian.

²⁰ Предотвращение и урегулирование конфликтов на территории государств-участников СНГ. // Журнал "Право и безопасность". №2-3 (3-4) Август 2002 г.

²¹ Организация Объединенных Наций и положение в Таджикистане. // Справочный документ. - Нью-Йорк. ДООИ/1685 - Март 1995 года. 37 С.; Доклад Генерального секретаря ООН о положении в Таджикистане. // Distr.GENERAL. S/1996/1010. 5 December 1996. RUSSIAN; Доклад Генерального секретаря ООН о положении в Таджикистане. // Distr.GENERAL.S/1997/56. 21 January 1997. RUSSIAN; Общее соглашение об установлении мира и национального согласия в Таджикистане. МНООНТ. 1997 год.

(1994年5月17日、カーブル；1994年7月19日、テヘラン；1996年12月10日、アフガニスタンのホスデフ；1996年12月23日、モスクワ；1997年4月16日-18日、ビシュケク)。

1997年6月27日、ラフモノフとヌーリーは、モスクワで「タジキスタンにおける和平と国民の和解に関する包括協定」に調印した。包括協定は以下に挙げる主要な議定書・協定とセットであった。タジキスタンにおける和平と国民の和解の主要原則に関する議定書（1995年8月17日付）、政治的諸問題に関する議定書（1997年5月18日付）、モスクワにおける会談での結果に関するラフモノフとヌーリーの合意（1997年12月23日）、国民和解委員会の主要機能と委任に関する議定書（1996年12月23日付）、国民和解委員会に関する規程（1996年2月21日付）、「国民和解委員会の主要機能と委任に関する」議定書への追加議定書（1997年2月21日付）、軍事的諸問題に関する議定書（1997年3月8日付）、難民問題に関する議定書（1997年1月13日付）、「タジキスタンにおける和平と国民の和解に関する包括協定」実現の保障に関する議定書（1997年5月28日付）。

タジキスタン政府とU T Oから13人ずつ、計26人で構成された国民和解委員会が包括協定実現の主要なメカニズムとなった。国民和解委員会の議長はU T O代表のヌーリー、副議長はマジリスィ・オリーの副議長であるアブドゥマジド・ドスティエフであった。国民和解委員会は、軍事問題、政治問題、法律問題、難民問題についての4つの小委員会から成り、それぞれに政府とU T Oから3名ずつの代表が派遣された。

国民和解委員会とタジキスタン政府の建設的な相互協力のおかげで、協定の規程にそって相互赦免・恩赦法の措置がとられ、捕虜が釈放された。政府機構の改革が行れ、省庁・局・地方行政機関・司法及び法執行機関を含む政府機関の要職にU T Oの代表者たちが任命された。

国民投票によって憲法も改正された。政党、社会団体、マスコミ、議会選挙に関する法案が作成され、野党や反体制的運動、マスコミの活動を禁止する法律が撤廃された。国民和解委員会の最も大きな成果の一つは、約7千人の戦闘員から成るU T Oの部隊の再統合、武装解除、解体のプロセスである。他方で政府側の軍隊・警察機構の改革も行われた。

タジク難民の本国帰還も、包括協定と国民和解委員会の活動の最も良い成果の一つである。約80万人のタジク難民がアフガニスタン、パキスタン、イラン、C I S諸国から祖国に戻った。国際機関の中でも特に国連難民高等弁務官事務所の支援のもと、政府によって、元の定住地への帰還、住居の修復と建設、信頼回復などの多くの作業が実施された。

2 紛争後の復興

紛争後のタジキスタンは、内戦の結果と移行期に特有な困難、つまり経済危機、貧困、労働移民、社会保障の低下、公共事業の減退などの重大な諸問題に直面している。

タジキスタンの主な戦後問題

近年のタジキスタンにおける主要な成果は、国内の平和と安定の維持、国民和解政策の継続である。この平和的なプロセスにより、政治・経済・社会・宗教などの領域で改革が実現されつつある。タジキスタンは社会を民主化し、市場経済へと移行しつつある。

新憲法が採択され、常設された国会がうまく機能している。タジキスタン・イスラーム復興党を含む6つの政党が国内では活動を続けている。死刑制度の一時停止も宣言

された。GDPは毎年7%ずつ成長し、通貨のソモニは安定的に流通している。門戸開放政策が行われ、対外関係は拡大し、タジキスタンの国際的威信が高まっている。タジキスタンのイニシアティブで、国連が2005年から2015年までの「命のための水」10年計画を宣言したのは、その確たる証といえよう。

だがタジキスタンは、多くの問題をいまだ解決できずにいる。問題は、グローバル、地域、国内の3つに分類できる。グローバルな問題として挙げられるのは、国際テロとの闘い、急進的な宗教過激主義、分離主義、不法移民、麻薬・武器密輸、人身売買、AIDS対策だ。地域レベルの問題とは、国境の決定及び画定、タジキスタン・ウズベキスタン間国境に敷かれた地雷の除去、国境に跨る土地及び水利用などである。

国内問題として特に言及したいのは、国民の80%以上を占める貧困層の割合を低下させることだ。失業率が高いため、毎年40万人から100万人以上の労働力が流出する²²。その他にも食料供給、エネルギー安全保障、交通問題の克服、人口問題、環境問題、情報基盤の整備などが未解決である。

国際社会とタジキスタンの復興

タジキスタン政府が立案した紛争後の復興に関するいくつかの長期計画が実現されつつある。これには、貧困緩和、構造改革、2015年までの経済発展、人口状況の向上などが含まれる。だが緊要な問題解決は、予算上の制約のため、困難に陥っている。

このような条件下で、国際社会の支援はタジキスタンにとって死活的な重要性を持つ。それゆえ、国連と世界銀行の支援のもとで実施された、紛争後の持続的な平和構築のための資金提供国国際会議の成果を、タジキスタン政府は高く評価する(於東京、1996年10月31日、タジキスタン支援に1億8500万ドルが約束される²³。於ウィーン、1997年11月、5650万ドル²⁴。於東京、2001年5月16日-18日、4億3000万ドル。於ドゥシャンベ、2003年5月2日-3日、9億ドル、内2億ドルは人道的援助、約3分の2はグラント²⁵。於ロンドン、2004年2月9日-10日、タジキスタンへの援助供与及びより効率的な利用の保証)²⁶。

9月25日に、ドゥシャンベでイスラーム開発銀行(IDB)の投資諸国による国際会議が開催された。そこでタジキスタンに創設資金2億ドルの投資会社を設立することが決定した。現在までにIDBは6000万ドルのクレジットと160万ドルのグラントをタジキスタンに提供した。また、1999年から2001年の国際通貨基金(IMF)による1億800万ドルの資金援助で、年金改革・産業の民営化、行政改革が実施された。欧州復興開発銀行(EBRD)と国際金融会社は、タジキスタンの中小企業開発投資計画に1400万ドルのクレジットを提供した。

国際機関の中でも、国連とその在タジキスタン専門機関の役割は際立っている。2003

²² Программа экономического развития Республики Таджикистан на период до 2015 года. // Душанбе. 2002.

²³ Мухаммад Ризо Гасими. Мировой банк и экономические преобразования в Таджикистане. www.ca-c.org.

²⁴ Региональная конференция по проблемам миграции в Центральной Азии. Бишкек, 31 марта – 1 апреля 1998 года.

²⁵ Внешние заимствования. // Межрегиональный центр делового сотрудничества. www.mcds.ru.

²⁶ Таджикистан посетит региональный директор Всемирного банка. // www.money.rin.ru.

年だけでも、国連の要請のおかげで、39カ国から17万1800トン、総額1億1580万ドル相当の人道支援物資が送り届けられた。自然災害の被災者たちに15万5600トンの小麦粉、7400トンの植物油、5400トンの小麦、その他にも靴、衣料、寝具、医療器具と薬品が配給された。資金援助で最大の比重を占めているのは米国（51.6%）で、ドイツ（6.2%）、カザフスタン（5.5%）、ロシア（3.9%）、中国（3.1%）、ウズベキスタン（2.9%）と続く²⁷。

タジキスタンに対する日本の援助

日本はタジキスタンの主要な支援国の一つである。日本大使館は2002年1月15日にドゥシャンベで開設された。以来、日本は以下のような協力や援助を行ってきた。国連を含む国際機関の計画や事業の枠内での人道的支援。国際金融機関を通じた長期特恵クレジット。タジキスタン政府の要請による自然災害克服のための財政的・物資的援助。タジキスタン政府、あるいはNGOを通じた小規模事業の実現のための無償支援。国会議員、官僚、政党の代表、ジャーナリスト等による日本への視察旅行の組織。タジキスタン国民の日本の大学への留学。全体として、日本政府は小規模事業への無償支援計画の枠内で、総額230万ドル相当の48事業を実施した²⁸。

これらの事業の実現のおかげで、特に農村地帯での社会インフラの復興に力を注ぐことが可能となった。具体的には学校・医療施設・灌漑用水路の再建、居住区の飲料水の確保などだ。日本政府はまた、タジキスタン国立古代博物館の独自の歴史的展示品の保存環境維持のために、46万ドルを割り当てた。パミールのサレズ湖の科学的観察のための観測所設立にも、5万8千ドルを与えた。その他にも、日本社会開発基金は、かつてラシュト渓谷で戦闘員だった者たちに専門的職業訓練を施すモデル・センターを創設するため、57万5000ドルを与える予定である。

このように、タジキスタン紛争の政治的和解の中で、そして現在は復興の過程で、国際社会はタジキスタンへの支援を積極的に行ってきた。今日のタジキスタンに不可欠のものは、これまでの人道的な援助を、持続的な発展のための長期的な援助へと転換する戦略上の見直しである。国際社会は、タジキスタンの経済的発展に寄与しつつ、共通の脅威や困難に対して、地域の安全保障を向上させるべく協力を惜しまないと確信する。

おわりに

タジキスタンで生じた軍事・政治的紛争を平和的に和解させた経験は、様々な観点において今後の教訓となりうる。第一に、タジキスタン紛争の教訓は、ある社会的状態から他の社会状態へ移行する際に、特に安全保障と政治的安定の確保という点に関してバランスのとれたアプローチが必要であることを示唆する。第二に、安定と安全が保障されるのは、紛争当事者間の確固たる意思と決意に基づき、全当事者の利益がバランスよく考慮された案が作成されたときに限られるということだ。第三に、一度、紛争が生じた場合、これを平和的な和解に導くためには、様々な国際的や要因、つまり国際協力とその効果的な構想が必要とされる（タジキスタンの場合は、国連タジキスタン監視団、国連タジキスタン平和構築事務所、コンタクト・グループ、保障国、

²⁷ Гуманитарная помощь Таджикистану в 2003 году. // www.khovar.tojikiston.com.

²⁸ Пресс-релиз Посольства Японии в Республике Таджикистан. // Душанбе. 2004.

支援国、国際金融機関、タジキスタンにおけるC I S 共同平和維持軍など)。

紛争の平和的解決における他の効果的方法としては、以下のものも強調されよう。すなわち、国際機関の庇護下における紛争当事者間の直接交渉プロセス。建設的な対話を行い、並ならぬ解決案を受け入れた双方の指導者たちの存在。そして、合意された件案を実現させるための様々なメカニズム (タジキスタンの場合は、国民和解委員会、停戦についての共同委員会、調停作業部会、交渉の枠外での両者間の協議、「シャトル」外交など)。

タジキスタンの政治的展望は、2005年の議会選挙と2006年の大統領選挙を経た、新しい社会と政治の関係に大きく左右される。同時に中央アジアにおける地政学的安定の維持と米国・中国・ロシアといった世界の大国及び中央アジア諸国の利益の所在によって条件づけられよう。

現在、タジキスタンの外交は多元的なアプローチをとっている。ラフモノフ大統領は、国会での大統領年次教書演説で次のように述べた。「タジキスタンは内政面で、中央の権力を強化することによって、構造改革・貧困の緩和・国内的安定の保障を目標とした政治的・経済的・社会的改革を実行し続ける」。対外関係は「門戸開放」政策とタジキスタンの周囲に安全保障帯を設けることに力点が置かれる。これによって、国際テロリズム、宗教的過激主義、麻薬汚染などの脅威が取り除かれ、エネルギー上の安全保障が確保される。輸送・交通面にかかわる袋小路から脱出することができ、外国投資を誘致しうる。これらはすべて緊要な国内問題解決に役立つだろう。

(ロシア語から、D. クリフツォフと加藤美保子が翻訳)



国境地帯で調査するメフラー氏



▲
対アフガニスタン国境(パンジ川)
放置された戦車の残骸 ▶



対クルグズスタン国境付近



国連関係者の記念碑(ラビジャル)